

第 15 回(2017 年)

マーサーMPA アワード受賞運用プロダクト概要

目次

1. マーサーMPA アワード受賞会社一覧.....	1
2. マーサーMPA アワードとは？	3
3. 国内株式大型部門受賞運用プロダクト概要	4
• コムジェスト・アセットマネジメント株式会社	4
• 野村アセットマネジメント株式会社	5
• スパークス・アセット・マネジメント株式会社	6
• ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド 東京支店	7
• ラッセル・インベストメント株式会社.....	8
• 三井住友アセットマネジメント株式会社	9
• インベスコ・アセット・マネジメント株式会社	10
• アセットマネジメント One 株式会社	11
4. 外国株式部門受賞運用プロダクト概要	12
• ウェリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド	12
• ウェリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド.....	13
• ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社.....	14
5. 外国債券部門受賞運用プロダクト概要	15
• ピムコジャパンリミテッド	15
• ラッセル・インベストメント株式会社.....	16
• アセットマネジメント One 株式会社	17
6. 国内債券部門受賞運用プロダクト概要	18
• 東京海上アセットマネジメント株式会社	18
• 明治安田アセットマネジメント株式会社	19
• 日興アセットマネジメント株式会社	20
7. 国内株中小型部門受賞運用プロダクト概要	21
• 株式会社りそな銀行	21
• 三菱 UFJ 信託銀行	22
• 三井住友アセットマネジメント株式会社	23

1

マーサーMPA アワード受賞会社一覧

第15回マーサーMPA アワード受賞会社は次の表の通りです(カテゴリー内はあいうえお順)。本書は、受賞運用会社から提供された情報をもとに、各運用プロダクトの概要をマーサーがまとめたものですが、作成時点で情報提供がない受賞プロダクトの概要は掲載されていません(カテゴリー内での掲載順は、原則的に情報提供の順です)。

国内株式大型部門 (5年)	
アセットマネジメント One	インベスコ・アセット・マネジメント
コムジェスト・アセットマネジメント	スパークス・アセット・マネジメント
ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド	野村アセットマネジメント
三井住友アセットマネジメント	ラッセル・インベストメント
外国株式部門 (5年)	
ウエリントン・マネージメント・ジャパン	ウエリントン・マネージメント・ジャパン
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	
外国債券部門 (5年)	
アセットマネジメント One	ピムコジャパンリミテッド
ラッセル・インベストメント	
国内債券部門 (3年)	
東京海上アセットマネジメント	日興アセットマネジメント
明治安田アセットマネジメント	
国内株式中小型部門 (3年)	
三井住友アセットマネジメント	三菱 UFJ 信託銀行
りそな銀行	

免責事項

マーサーMPA アワードは過去の定量結果だけによる表彰であり、マーサーが顧客に運用プロダクトを推薦する場合に利用する定性評価とは何の関係もないものです。運用プロダクトのリターン・データは運用報酬控除前であり、顧客が利用する際には、運用報酬の違いを考慮する必要がありますので、表彰対象と同じ期間に表彰された運用プロダクトを使っても、表彰と同一の結果を受けられるわけではありません。また、表彰に利用した評価基準が適切な方法であると保証するものではありませんし、表彰のために使ったデータや計算が正しいものであると保証するものでもありません。マーサーはこのアワードを受けた運用会社について何の保証をするものでも責任を持つわけでもありません。過去の実績は将来のリターンを保証するものではありません。

本書でまとめた各社の運用概要は事実であると思われる内容を掲載していますが、事実と異なるとしてもマーサーが責任を負うわけではありません。また、マーサーはこれらの運用を推薦、あるいは媒介・販売する意図を持って掲載しているわけではありません。

本件に関する問い合わせ先

マーサージャパン株式会社

資産運用コンサルティング

03-5354-1461 (代表) investment.japan@mercer.com

2

マーサーMPA アワードとは？

マーサーMPA アワードとは、マーサー ジャパンが日本における企業年金あるいは機関投資家向けのコンサルティング・サービスを提供するために、収集・管理している円ベースの運用リターンの中から、優れた結果を達成した運用プロダクトを讃えるものです。賞の名前は、マーサーで運用リターンを分析するソフトウェアの名前(MPA=Manager Performance Analytics)をとったものです。

アワードの対象とする円ベースの運用リターンは、マーサーのグローバルなデータベースであるGIMDに運用機関が入力したデータの中から、マーサージャパンが選定してパフォーマンス・ユニバースに登録したものを対象としています。ユニバースへ登録されるリターンは運用機関が過去に溯って入力したデータは対象としていません。アワードの選定基準は以下のとおりです。

選定基準

- 企業年金運用における主要なカテゴリー毎に5年あるいは3年で、トータル・リターンと代表的なインデックスに対するインフォメーション・レシオをそれぞれ基準化した数字を合計して、カテゴリー内の上位10%(但し、最大8プロダクトまで)あるいは上位3位のファンドの多い方を選定しています(なお、国内株中小型、国内債券と外国債券はトータル・リターンのみ)。
- 選定基準日時点におけるデータの入力
- 日本国内に拠点を持つ運用機関が提供する運用プロダクト
- 受賞意思の表明
- 登録運用リターンの正確性の確認
- 表彰対象期間に対象運用プロダクトで継続的に5億円以上の顧客資産額
- 対象カテゴリーの特性に合致(対象期間の対象ユニバースの資産の組み入れ比率が最低時点でも80%以上でかつ平均で90%以上など)
- 実際に独立した運用としてのリターンの計算(グローバル株式運用で日本株を除くなどの計算は不可)

3

国内株式大型部門受賞運用プロダクト概要

コムジェスト・アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日本株式戦略
会社概要	コムジェスト・アセットマネジメントは、1985年にパリで設立された独立系資産運用会社コムジェストの日本法人です。設立来一貫した投資哲学を守り、企業調査に基づくロングオンリーの運用戦略を世界中の投資家に提供しています。2016年12月末現在グループの預資産残高は、約2兆7千億円です。
運用手法の概要・特徴	企業調査に基づき、安定した利益成長を長期的に持続できるクオリティ・グロース企業を発掘することを目指しています。5年平均二ケタ成長が可能だと考えられる銘柄を発掘し、チームの合議によって約80銘柄の投資ユニバースを構築。その中からバリュエーションと確信度を勘案し、30-40銘柄で集中型ポートフォリオを構築します。コムジェストの他の地域別チームとの連携により、海外の競争相手、取引先、そして市場動向なども探ります。
ポートフォリオのリスク特性	参考指数: TOPIX(配当込み) 目標: 長期的に参考指数より低いリスクで高いパフォーマンス ボラティリティ(5年実績): 代表口座(グロス)15.71%vsTOPIX17.78% (年率・2017年3月末時点) アクティブシェア(2017年3月末時点): 87.5%(代表口座)
付加価値の源泉	100%ボトムアップ・アプローチによる個別銘柄選択

野村アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日本株式アドバンス・アルファ
会社概要	<p>野村アセットマネジメントは、野村グループにおけるアセット・マネジメント部門の中核会社としてグローバルに資産運用ビジネスを展開しています。「すべてはお客様のために」という基本観にたち、国内外の顧客や社会からの信頼を獲得し期待に応え、資産運用ビジネスを通じて社会の発展に貢献していくことを目指しています。これまで培ってきたノウハウと経験を活かし、特色あるアジアの運用会社として、最高の付加価値の創造に挑戦することを心がけています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>130%程度のロングポートフォリオと30%程度のショートポートフォリオを組み合わせ、ボトムアップの観点から銘柄判断を行う事でTOPIX(BM)を超えるリターンの獲得を目指す運用を行っております。また、主にリスクコントロールの観点からトップダウンによるセクター判断を行い、一部のセクターへの過度なリスク集中を行わないように努めており、ボトムアップとトップダウンによる判断を組み合わせることで中期的に安定したリターンを追求した運用を行っております。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>トラッキングエラーで8%を超えない程度のリスク水準に抑え、またマーケットタイミング(β)によるリスクは低位に抑えています。</p>
付加価値の源泉	<p>リサーチや企業訪問に基づく企業業績判断、相対企業価値判断に基づくボトムアップの銘柄選択を主な付加価値の源泉としています。</p>

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

運用戦略名	スパークス日本株式長期厳選投資戦略
会社概要	<p>SPARX は 1989 年7月の創業以来、独立系の投資顧問会社として日本株を中心に企業への個別訪問によるボトムアップ・リサーチを軸に資産運用を行っています。「世界で最も信頼・尊敬されるインベストメント・カンパニー」になるというビジョンのもと、最良のインベストメント・インテリジェンスを投資家に届けることを目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>日本の上場株式全てを投資対象とし、長期にわたって保有が可能と考える限られた数のコア銘柄に投資を行います。SPARX にとって、株式投資とは企業の一部を所有することと同じことであると考えています。創業以来、「マクロはミクロの集積である」という投資哲学の下、個別企業調査が株式投資においてリターンを最大化させると同時に最大のリスクヘッジになると考えています。当戦略では、魅力的な企業には以下のような共通点があると考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスモデルがシンプルで理解しやすい、 2. 本質的に安全なビジネス、 3. 有利子負債が少ない強固なバランス・シート、 4. 高い参入障壁に守られたビジネス、 5. 持続可能な高 ROE とそれに見合う利益成長、 6. 景気動向に左右されず潤沢なキャッシュフローを生み出している、 7. 資本コストを理解し、最適資本配分ができる卓越した経営陣
ポートフォリオのリスク特性	<p>基本的には長期において絶対収益を獲得することを目的としてベンチマークは設定していないため、目標となるトラッキングエラーや期待収益率はありません。</p>
付加価値の源泉	<p>当戦略の追求するアルファの源泉は全てボトムアップ・リサーチに基づく純粋な個別銘柄選択です。</p>

ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド 東京支店

運用戦略名	日本株式運用戦略
会社概要	<p><ティー・ロウ・プライス・グループ></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ティー・ロウ・プライスは 1937 年、トーマス・ロウ・プライス Jr.により米国メリーランド州ボルティモアに設立された、独立系資産運用会社です。 ●グループ全体の 2017 年 3 月末時点の運用資産総額は、8,616 億米ドル(約 96 兆円)、従業員数は約 6,600 名です。 ●日本では、2003 年に東京支店を開設しました。
運用手法の概要・特徴	<p><ボトムアップに基づく独自のファンダメンタルズ・リサーチが主たる付加価値の源泉></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アナリストが行うファンダメンタル分析はリサーチの中核と位置づけています。 ・長期的視点での収益やキャッシュフローの増大が株主価値を生み出す牽引力になると考えます。 ・概して時価総額の小さい企業に非効率性が多く存在することを重視し、あらゆる規模の企業を投資対象としています。 <p><グローバル・セクターとの様々な視点に基づく比較分析が可能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着した日本株式アナリスト・チームは、グローバルに展開するセクター別に配された株式調査部門に属しており、地域毎やグローバル・セクターにおける専門的知識の活用が可能であると考えています。
ポートフォリオのリスク特性	<ul style="list-style-type: none"> ●ベンチマーク: TOPIX(配当込み) ●目標超過収益: 3%以上(年率、3~5 年の期間において) ●推定トラッキング・エラー: 対ベンチマーク比 3~6%(年率) ●保有銘柄数: 概して 60~100 銘柄
付加価値の源泉	銘柄選択: 80%、セクター配分: 20%

ラッセル・インベストメント株式会社

運用戦略名	ラッセル・インベストメント日本株式マザーファンド
会社概要	<p>設立：1999年3月9日 資本金：16億950万円 事業内容：金融商品取引業、資産運用コンサルティング業 登録・加入協会：金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号、 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 (2017年3月31日現在)</p>
運用手法の概要・特徴	<p>ラッセル・インベストメントは、真に優秀な運用機関はアクティブ運用により付加価値を生み出すことができると考えています。また、優秀な運用機関を評価・発掘し、十分吟味した複数の運用スタイルに分散投資し、個別運用機関やポートフォリオ全体を継続的にモニタリングすることにより、安定的な収益の実現が可能になると考えています。異なる運用スタイルを持つ運用機関を最適な割合で組み合わせるマルチ・マネージャ―運用により、個別銘柄選択、業種選択といった国内株式運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>特徴のある運用手法を最大限生かすため、それぞれの運用機関には高いトラッキング・エラーを許容する一方、補完性のある手法(リターンに負の相関がある)を組み合わせることで、ファンド全体のリスクの軽減を図ります。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択：70% 業種選択：30% これらの想定割合は、組入れた運用機関が、独自の判断に基づく運用の結果としてとっている一般的なリスクの集積を想定したものです。</p>

三井住友アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	三井住友アセットマネジメント国内株式ニューα
会社概要	<p>三井住友アセットマネジメント(SMAM)は、2002年12月に三井住友系保険会社3社と三井住友銀行の運用子会社が合併し誕生しました。「リサーチこそが付加価値の源泉」であるとの信念の下、業界最大級のリサーチ体制を構築しています。リサーチに基づく特徴あるマルチプロダクトを提供することにより、顧客の多様なニーズに対応します。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>投資ホライズンを分散した銘柄選択に加え、業種リスク・スタイルリスクを中立に保つことで安定したパフォーマンスを目指す、国内株式アクティブ運用です。</p> <p>伝統的な企業財務分析(ファンダメンタルズ分析)に加え、非財務分析(経営力やサステナビリティ分析)を行い、中長期的な財務面(ファンダメンタルズ)への影響を考慮した銘柄分析を行うことで、安定的な超過収益獲得を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク : TOPIX(配当込み)</p> <p>目標推定トラッキングエラー : +3~7%程度</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択を付加価値の源泉として考えております。</p>

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

運用戦略名	インベスコ 日本株式アドバンテージ
会社概要	<p>インベスコ・アセット・マネジメント株式会社は、米国アトランタに本拠を構え、世界 20 カ国以上で業務展開する独立系資産運用会社インベスコ・リミテッドの日本法人です。インベスコは、「素晴らしい投資体験を通じて、人々の人生をより豊かなものにする」という使命のもと、グローバル市場で培って来た特色ある運用力を生かし、グループの総合力を結集して世界の投資家の資産運用ニーズに対し包括的な解決策を提供しています。国内におきましては、機関投資家向けには、株式、債券などの伝統的な運用資産に加え、オルタナティブなどの各種投資戦略を、また個人投資家向けには銀行・証券会社・保険会社などを通じ、様々な投資信託およびサービスを提供しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>アドバンテージ運用は、中長期的な観点から株主価値を高めることのできる「優良企業」に厳選投資を行うインベスコ独自の運用戦略です。</p> <p>株主価値の向上には、株主の本質的な価値であるフリー・キャッシュフローを強固に創出していくことが不可欠であり、それを可能にするためには、ブランド力、技術開発力、顧客基盤など無形価値の保有に加え、その優位性を生かすことが何より重要です。それを実践している「優良企業」を、独自のファンダメンタルズ分析に基づくボトムアップ・アプローチにより、バリュー／グロース／大型／小型等のスタイルにとらわれることなく選別、かつ厳選投資することで、中長期的に優れたリターンを獲得を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: TOPIX(配当込)</p> <p>*目標とする収益率、リスク水準等は、特段定めていません。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択: 100%</p>

アセットマネジメント One 株式会社

運用戦略名	国内株式リサーチ・グロース(みずほ信託銀行 第 20 株式口)
会社概要	<p>アセットマネジメント One 株式会社は、DIAM アセットマネジメント株式会社、みずほ信託銀行株式会社の資産運用部門、みずほ投信投資顧問株式会社及び新光投信株式会社が統合し、2016 年 10 月 1 日に発足した資産運用会社です。「投資顧問事業」と「投資信託事業」の双方の事業領域における運用資産残高は約 54 兆円です。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>2016 年 9 月まではみずほ信託銀行の資産運用部門(現アセットマネジメント One)にて運用を行っていたプロダクトをアセットマネジメント One がみずほ信託銀行からの運用再委託を受けて、運用を継続しています。</p> <p>ボトムアップアプローチによるリサーチを通じて企業の潜在的な成長力を捉え、株式市場で十分な評価を得られていない段階で投資することにより、中長期的にベンチマークに対する超過収益の獲得を目指す成長型のアクティブファンドです。「長期的な視点」による企業分析・評価と、「健全な懐疑心」による市場へのチャレンジという二つのマインドセットを組織の理念として重視するとともに、個別銘柄選択に際しては、投資機会における確信度を高めるために「アナリストとファンドマネジャーとの間の活発な議論(=擦り合わせ)」を重視しています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベンチマーク: TOPIX 配当込み ・ 目標超過収益率: +3.0% ・ 主なリスク管理項目: 推定トラッキングエラー 10% 以内(バーラモデル)
付加価値の源泉	<p>付加価値の源泉は、インハウスアナリストの企業調査に基づく潜在成長力評価をベースとした個別銘柄選択効果(定性 100%)です。</p>

4

外国株式部門受賞運用プロダクト概要

ウエリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド

運用戦略名	グローバル・オポチュニティーズ(除く日本)
会社概要	<p>ウエリントン・マネージメントは、世界最大級の独立系投資運用会社であり、資産運用業務に専念しています。日本においては、1997年に東京支店を設立して以来、国内の顧客に運用サービスを提供してきました。2017年3月現在、ウエリントン・マネージメントの運用資産総額は約10,187億ドル(約114兆円)に達し、世界50カ国以上の顧客に、グローバル株式、債券、通貨、コモディティに至るまで多岐にわたる運用アプローチを提供しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>グローバル・オポチュニティーズ(除く日本)は、企業が保有する資産の真の収益率と投下資本利益率の改善に着目したグローバル・コア・アプローチを採用しています。運用プロセスではファンダメンタル調査を重視し、銘柄選択は特定の投資スタイルに偏向せず、機動的に行います。また、バリューおよびグロース双方の銘柄群にオポチュニスティックに投資を行うことで、投資機会の最大化を追求します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>当戦略の投資目標は、3~5年の投資期間においてMSCIコクサイ指数に対して年率2%(報酬控除前)以上のリターンを獲得することです。トラッキング・エラーの目標値は設定していませんが、通常、年率3~6%程度の水準になることを想定しています。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択に70%、国別配分およびセクター配分に30%の付加価値源泉を求めます。国別配分およびセクター配分はボトムアップの銘柄選択プロセスの結果として決まります。</p>

ウエルントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド

運用戦略名	グローバル・グロース(除く日本)
会社概要	<p>ウエルントン・マネージメントは、世界最大級の独立系投資運用会社であり、資産運用業務に専念しています。日本においては、1997年に東京支店を設立して以来、国内の顧客に運用サービスを提供してきました。2017年3月現在、ウエルントン・マネージメントの運用資産総額は約10,187億ドル(約114兆円)に達し、世界50カ国以上の顧客に、グローバル株式、債券、通貨、コモディティに至るまで多岐にわたる運用アプローチを提供しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>グローバル・グロースは、企業収益の絶対水準ではなく、その加速及び成長局面の評価に焦点をあてたファンダメンタルズ調査に基づくボトムアップ銘柄選択によって、長期的な資産価値の増大を目指します。運用プロセスでは、「グロース」の定義を幅広くもつこと、企業の増益に繋がるファンダメンタルズの改善を見極め、収益成長率の加速が完全に株価に織り込まれる前に取り込むことを重視します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>当戦略の投資目標は、3年の投資期間においてMSCIコクサイ指数に対して年率2%以上(運用報酬控除前)のリターンを獲得することです。トラッキング・エラーの目標値は設定していませんが、通常、年率3~6%程度の水準になることを想定しています。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択に90%、セクター配分に10%の付加価値源泉を求めます。なお、国別配分については運用プロセスの中で明確に付加価値源泉を求めないものの、余剰として国別配分が一部リターンに寄与する場合があります。</p>

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

運用戦略名	外国株式計量アクティブ
会社概要	<p>ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント(GSAM)は、ゴールドマン・サックスの資産運用部門として、1988年に設立されました。2017年3月末現在、世界の機関投資家、政府系機関、個人投資家との契約資産は130兆4,079億円(11,703億米ドル、1米ドル=111.430円にて換算)に達しております。世界の主要都市に配した30以上の拠点到2,000名超の社員を有し、日本においてはGSAMの東京拠点であるゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社を設置し、グローバルな体制のもと、主に日本国内の顧客向けの運用サービス業務に注力しております。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>計量株式アクティブ戦略は、客観的なデータに基づき、対象とする株式市場を包括的に捉え、リスク管理を重視するアプローチです。経済合理性を重視した計量モデルを用いたプロセスにより、属人的、主観的な要素(データ・マイニングを含む)を排除した合理的な投資判断による運用を目指しています。セクター/業種への意図せざるリスクやスタイル・バイアスの影響を軽減しつつ、国別配分と個別銘柄選択の2つの付加価値源泉を通じてベンチマークであるMSCIコクサイ・インデックスに対する超過収益率を達成することを目標としています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<ul style="list-style-type: none"> ●ベータの目標値は1.0 ●目標トラッキング・エラーは2.0-3.0%(年率) <p>業種配分あるいはファンダメンタル・リスクといった意図せざるリスクに関しては、極力ベンチマークからの乖離を抑制します。</p>
付加価値の源泉	<p>独自開発の計量モデルを用いた定量的な銘柄評価ならびに国・通貨別のリターン予測にもとづき、個別銘柄選択に約60%、国別配分に約40%の付加価値の源泉を求めます。</p>

5

外国債券部門受賞運用プロダクト概要

ピムコジャパンリミテッド

運用戦略名	ピムコ外国債券運用
会社概要	<p>PIMCO グループは 1971 年に設立された、グローバルに運用拠点を構える世界最大級の債券運用残高を有する運用会社です。</p> <p>2017 年 3 月末時点の PIMCO グループの受託資産残高は約 1.14 兆ドル(アリアンツ・グループ関係会社からの受託残高を除く)となっており、日本における受託資産額は約 10 兆 9,624 億円にのぼります。</p>
運用手法の概要・特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1) コアアプローチ: ベンチマーク並みにリスクをコントロールした上で、超過収益をあげることを目標とします。 2) 短期的な売買に依らない、長期的なファンダメンタルズを重視した運用を行います。 3) 超過収益源泉を可能な限り分散することで、特定の付加価値源泉から来るマイナスがポートフォリオ全体に大きな影響を及ぼさないような運用を志向します。 4) 多様な超過収益源泉を取得することから来る、多様なリスクを管理するリスク管理システムで意図しないリスクの排除を目指します。
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマークであるシティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)に対して、年率 1.0-1.5%の超過収益を報酬等控除前で達成することを目標としています。</p> <p>また、推定トラッキング・エラーは最大で年率 2-3%で管理することを目標とします。</p>
付加価値の源泉	<p>中長期的に、トップダウン(デュレーション、イールドカーブ、通貨)戦略 50%、ボトムアップ戦略(セクター、銘柄選択、裁定取引)50%の比率で付加価値を実現することを目標とします。</p>

ラッセル・インベストメント株式会社

運用戦略名	ラッセル・インベストメント外国債券マザーファンド
会社概要	<p>設立：1999年3月9日 資本金：16億950万円 事業内容：金融商品取引業、資産運用コンサルティング業 登録・加入協会：金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 (2017年3月31日現在)</p>
運用手法の概要・特徴	<p>ラッセルは、真に優秀な運用機関はアクティブ運用により付加価値を生み出すことができると考えています。また、優秀な運用機関を評価・発掘し、十分吟味した複数の運用スタイルに分散投資し、個別運用機関やポートフォリオ全体を継続的にモニタリングすることにより、安定的な収益の実現が可能になると考えています。異なる運用スタイルを持つ運用機関を最適な割合で組み合わせるマルチ・マネージャー運用により、金利予測、満期構成、債券種別選択、国別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>特徴のある運用手法を最大限生かすため、それぞれの運用機関には高いトラック・エラーを許容する一方、補完性のある手法(リターンに負の相関がある)を組み合わせることで、ファンド全体のリスクの軽減を図ります。</p>
付加価値の源泉	<p>国別配分：26% デュレーション/イールドカーブ：19% 通貨配分：16% 債券種別選択：21% 個別銘柄選択：18% これらの想定割合は、組入れた運用会社が、独自の判断に基づく運用の結果としてとっている一般的なリスクの集積を想定したものです。</p>

アセットマネジメント One 株式会社

運用戦略名	外国債券インターナショナル・コア(みずほ信託銀行 第1外貨建口)
会社概要	<p>アセットマネジメント One 株式会社は、DIAM アセットマネジメント株式会社、みずほ信託銀行株式会社の資産運用部門、みずほ投信投資顧問株式会社及び新光投信株式会社が統合し、2016年10月1日に発足した資産運用会社です。「投資顧問事業」と「投資信託事業」の双方の事業領域における運用資産残高は約54兆円です。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>2016年9月までは旧みずほ投信投資顧問(現アセットマネジメント One)からみずほ信託銀行に運用助言を行っていたプロダクトです。2016年10月以降は、アセットマネジメント One がみずほ信託銀行からの運用再委託を受けて、従前からの運用を継続しております。</p> <p><運用手法> ジャッジメンタル・アクティブ</p> <p><投資哲学> 構造分析により大局観を構築し金融市場の長期トレンドを認識した上で、循環分析および市場分析を併せて行うことで中期および短期トレンドにも配慮した運用戦略を策定することにより、安定的に高い超過収益の獲得が可能と考えます。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク : シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)</p> <p>目標超過収益率 : 年率 1.0%以上</p> <p>推定トラッキング・エラーの目標 : 年率 0.4~1.5%</p>
付加価値の源泉	<p>超過収益の源泉は、カントリーアロケーション 60%、デュレーション 25%、イールドカーブ 10%、クレジット 5%です。 (過去の実績に基づく平均的なウエイト)</p>

6

国内債券部門受賞運用プロダクト概要

東京海上アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	東京海上 AM 国内債券ハイアルファ
会社概要	<p>東京海上アセットマネジメント株式会社(TMAM)は1985年12月に設立された資産運用会社です。企業年金など機関投資家や事業法人の顧客向けの投資顧問業務と個人の顧客向けの公募投信の運用などを行っています。</p> <p>当社は、「独自の徹底的な調査と分析を投資の原点に置く」との一貫した運用哲学を全社員が共有し、多様なニーズに応える幅広いラインアップ、きめ細かな顧客サービス、コンプライアンスの遵守などにより受託者責任の完遂を目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>NOMURA-BPI(総合) + αを狙うアクティブ運用。イールド戦略、スプレッド戦略および個別銘柄選択を付加価値とします。金融派生商品を活用することにより、従来型(国内債券アクティブ(総合型)より高いアルファ(超過収益)の獲得を目指します。</p> <p>イールドおよびスプレッドベータを中心としたトップダウン戦略と、ボトムアップ戦略(個別銘柄選択)という複数の戦略へバランスよく分散投資し運用効率を高めることで、長期にわたり安定的な運用を行います。各種デリバティブ商品を活用することで、戦略の多様化・分散化を高め超過リターン目標達成の確実性を高めます。国内籍投信形態での提供とし、各種デリバティブ商品への投資は国内籍投信から特金信託を通じて行います。</p> <p>債券個別ポートフォリオに基づくTMAM USAからの個別投資助言を活用します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク : NOMURA-BPI(総合)</p> <p>目標収益率 : 年率 1.0%程度</p> <p>想定リスク水準 : 年率 2.0%以下</p>
付加価値の源泉	<p>超過収益の源泉は、イールド 70%、スプレッド 30%です。</p>

明治安田アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日本債券アクティブ
会社概要	<p>明治安田アセットマネジメントは、明治安田生命グループの中核の資産運用会社です。</p> <p>チームアプローチによる運用プロセスと、厳格なリスクコントロールを通じた、高品質で安定性の高い運用サービスの提供を目指しています。</p> <p>運用ノウハウ・人材を結集することで付加価値を創造し、透明性の高い資産運用業務に取り組むとともに、顧客から長期にわたる信頼を獲得し、社会に貢献できる資産運用会社を目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>NOMURA-BPI 総合指数をベンチマークとし、これを上回る投資成果を目指します。</p> <p>債券運用においては、トップダウンリサーチによる金利の水準・期間構造の変化を生み出す中期的なマクロ経済トレンドの分析・予測に重点を置き、アクティブなデュレーションの変更、イールドカーブ戦略等により付加価値の追求を行います。一方で、短期的なファクターによる市場リスク増大に対しても迅速に対応することで収益率向上を図ります。</p> <p>クレジット戦略では、クレジット・サイクル分析(種別選択)とアナリストによる信用力分析(個別銘柄選択)が投資判断の基準となります。信用力分析では償還までの保有が可能であることを最重要事項としながらも、ファンド管理上は流動性リスク等へも配慮した戦略運営を行っています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: NOMURA-BPI 総合</p> <p>目標超過収益率: 0.5% (年率)</p> <p>推定トラッキング・エラー: 0~1.5%</p>
付加価値の源泉	<p>金利選択(デュレーション+イールドカーブ: 70%)</p> <p>クレジット戦略(種別構成選択+銘柄選択: 30%)</p>

日興アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	国内債券特化型(国内債券アクティブ戦略 ブロード・マーケット型)
会社概要	<p>日興アセットマネジメントは、1999年4月、日興証券投資信託委託株式会社と国内外の年金運用で高い実績を誇る日興国際投資顧問株式会社が合併、発足し、55年超の歴史を有します。2017年3月現在、英国、米国、シンガポール、シドニー等海外現地法人等を含む従業員総数は約800名を擁し、20兆円を超える受託資産残高を運用しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・金利戦略は、金利水準の長期的な趨勢は物価動向の趨勢で説明可能と考え、需給ギャップを生む要因を分析して金利の方向性を予測し、デュレーションを調整するとともに、イールドカーブの相対比較で割安/割高を捉え、超過収益を追求します。 ・クレジット戦略は、ルーザー銘柄排除の徹底による「守り」と、潜在的なリスクを可視化してリスクを取る「攻め」による銘柄選択を行うとともに、クレジットファンダメンタルズ バリュエーション、需給を中心とした分析による種別配分を行い、超過収益を追求します。
ポートフォリオのリスク特性	<ul style="list-style-type: none"> ・超過収益率の目標： NOMURA-BPI 総合に対して+0.5% ・推定トラッキングエラー： 1.0%
付加価値の源泉	<ul style="list-style-type: none"> ・金利リスク(デュレーション、イールドカーブ)： 70% ・信用リスク(個別銘柄選択、種別配分)： 30%

7

国内株中小型部門受賞運用プロダクト概要

株式会社りそな銀行

運用戦略名	小型株(集中投資)／株式ロZ
会社概要	当社の信託財産運用部門は、1962年に大和銀行(現りそな銀行)の年金運用部門として創設され、以降約55年の長きにわたり国内有数の資産運用会社として第一線で活動を行っています。また、長年の年金運用で培った運用スキルおよび国内外資産への長期分散投資にかかる豊富なノウハウを、りそなグループのユニット各部門と共有し、顧客の資産形成の支援・促進に努めています。
運用手法の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none">・需要サイドのニーズを取り込み、持続的かつ安定した成長が見込まれる小型株を、ボトムアップ・リサーチにより抽出し、銘柄を絞って(10-30銘柄)投資します。・需要サイドのニーズを把握するために、中期的な「社会構造の変化」に注目します。構造変化に起因するニーズは、トレンドを伴った息の長いものになる可能性が大きいと考えています。また、企業成長の礎となる経営者の評価にも注力しています。・銘柄選択にあたっては、ビジネスモデルの安定性やバリュエーションを意識し、株価の下値抑制に配慮しています。
ポートフォリオのリスク特性	ベンチマークは設けていませんが、対 Russell/Nomura Small Cap に対し、推定TEは10%弱となります。また、グロースに偏る場合が多く、サイズは恒常的に小さな値となります。
付加価値の源泉	個別銘柄選択 100%です。

三菱 UFJ 信託銀行

運用戦略名	三菱 UFJ 信託国内株式中小型
会社概要	<p>三菱 UFJ 信託銀行は、企業年金分野で長年培ってきた専門性やノウハウをもとに、企業年金制度の設計から資産運用・管理まで総合的なサービスを提供しております。</p> <p>また、当社では本邦最大級の資産運用機関として、国内外の株式や債券等の運用商品で運用実績や商品性の向上を図るとともに、市況の変化や顧客の運用ニーズを踏まえた商品の開発・提供に取り組んでいます。</p>
運用手法の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・中小型株式を投資対象とし、企業調査に基づく業績予想を行い、業績が市場予想を上回る銘柄や、株価への業績反映度合いが十分でないと判断される銘柄に、選別投資することで超過収益を狙います。特にセクターの枠組みにとらわれない競争優位や独自のビジネス分野を持つ中小型銘柄の発掘・投資に注力します。 ・ポートフォリオは、有望テーマに集中投資することで高いパフォーマンスを狙うと同時に、複数の有望テーマへの分散投資することでリスク低減も狙います。
ポートフォリオのリスク特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチマーク: Russell Nomura Small Cap Index ・推定 T.E.: 20%以下。運営目安は推定 T.E.3%~12%程度。
付加価値の源泉	<ul style="list-style-type: none"> ・ボトムアップリサーチによる銘柄選別。

三井住友アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	三井住友アセットマネジメント国内株式中小型
会社概要	<p>三井住友アセットマネジメント(SMAM)は、2002年12月に三井住友系保険会社3社と三井住友銀行の運用子会社が合併し誕生しました。「リサーチこそが付加価値の源泉」であるとの信念の下、業界最大級のリサーチ体制を構築しています。リサーチに基づく特徴あるマルチプロダクトを提供することにより、顧客の多様なニーズに対応します。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>当ファンドは、ボトムアップ・リサーチにより割安で成長性のある中小型株銘柄に投資するものです。</p> <p>独自の投資視点「Gro-Val Cha-In(Growth、Value、Change、Information)」を活用し、魅力度の高い銘柄を発掘します。</p> <p>リサーチについては企業への直接取材を行いません。</p> <p>3名のファンドマネージャーが年間1000社を超える取材活動をこなすことで、経営者の生の声や直近の情報をタイムリーに入手します。ミーティングはワン・オン・ワン形式を中心に行うことから、経営者との直接面談を通じて、企業の「本質」を把握することが可能と考えています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク：TOPIX(配当込み) スタイルインデックスの対応も可能です。</p> <p>目標トラッキング・エラー：特に設定していません (BARRAベースで推定10~15%程度の水準)。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択を付加価値の源泉として考えています。</p>

重要事項

本文書には、マーサー(Mercer LLC 及びその関係会社を含む)の秘密情報及び専有情報が記載されており、マーサーが定めた当事者以外は使用することはできません。本文書の内容の全部又は一部を、マーサーの書面による事前許可を得ることなく修正したり、販売したり、又は他の個人若しくは組織に提供したりすることはできません。

本文書で明示される所見、評価、又は意見は、マーサーの知的財産であり、予告なく変更される場合があります。これらは、検討対象の投資商品、資産クラス、又は資本市場の今後の運用実績に関し、何らかの保証を付与することを意図するものではありません。また、過去の運用実績は、今後の結果を保証するものでもありません。マーサーのレーティングは、個別の投資助言ではありません。

本文書にはお客様の個別の状況を考慮した投資助言は記載されておられません。予め適切な専門家の助言を得ることなく、又はご自身の状況を考慮することなく、本文書の情報のみに基づいて投資決定を行なうべきではありません。

本文書に記載されている情報は、第三者によるさまざまな情報源の中から得られたものです。本文書の情報が信頼できるものであると見なされる限りにおいては、マーサーは独自に当該情報の検証を試みることはありません。したがって、マーサーは提供された情報の正確さに関する表明、保証を行なうことはなく、いかなる第三者によって提供されたデータの誤記、脱漏、誤りに関し、いかなる責任(間接的、派生的、付随的損害を含む)も負いません。

© 2017 Mercer LLC 無断転載禁ず。



Mercer Japan Ltd
Tokyo Opera City Tower 37/F,
3-20-2 Nishi-Shinjuku, Shinjuku-ku
Tokyo 163-1437
Japan
+813 5354 1560